

練馬二葉保育園

子どものすこやかな成長を守るために、大人はどんな環境を整えてあげたらいいのでしょうか。たくさん子どもたちをあずかる、ある保育園で気づいたのは、「音環境」の大切さでした。

HITO

MONO

KOTO



1.2. 丸い形や、雲のような形に切り取られたスポンジのような吸音材。壁にオブジェのように吊るされています。3.4. かわいらしい窓の奥には…吸音材が隠れていました。「とても上手にやっていただいて。気に入っています」(園長先生)



5. 玄関には、志村先生による「きこえを大切にしている保育園」という張り紙が。6. 天井の吸音材。よく見ないとどこを工事したのか、本当にわかりません。

図書コーナー

園内で唯一カーペット敷きの図書コーナー。壁にも吸音材がほどこされ、とても静かな空間です。「保育園は長時間過ごす場所。集団にずっといることがつらい子もいます。ゆったりくつろいで心を静めているようです」(園長先生)



すてきな新園舎が完成！ そこで覚えた違和感…

今年で創立46年を迎えた、東京都練馬区の練馬二葉保育園では、今から5年前の平成25年、園舎を新築しました。たっぷり光が入る大きな窓と、さわやかな風の通る吹き抜けが特徴的な、デザイン性に富んだ園舎です。定員も108名から120名にふえ、新園舎での保育が始まりました。

当初はあまり気になりませんでしたが、少し落ち着いたころ、園長の高橋八映先生はちょっとした違和感を覚えたといいます。「いやに騒がしいなど。人数はそれほど変わらないのになんだか落ち着かないんです」

保育室での子どもたちは、隣の部屋の声が聞こえてしまうために気が散り、集中して活動できません。なんとかしようと先生は大きな声を出し、子どもたちはもっと大きな声を出し、先生がさらに大声を出す…。そんな悪循環に、先生方ものを痛めたり、疲労がたまったり。子どもたちにもけっしてよくない状況になっていたのです。

「すてきな園舎に生まれ変わっ

たのですが、天井が高くて窓が多いせいか、音がよく響いたんです。それをおもしろがって子どもたちがわざと大声を出したりして…。特に乳児にはとても大事なときなので、もっといい環境にしたいと考えました」

園長先生は吸音工事を考えましたが、音環境に関して科学的に実証し、納得のいくように数値で示してくれる業者はありませんでした。「どうしたらいいのか頭を抱えてしまっ。そんなときにたまたま、『保育室の残響音』に関する報告書を見つけて、これだ！と。そのとき事務局にかけた電話が、20年以上保育施設の「音」を調査してきた、埼玉大学の志村洋子名誉教授との出会いへと通じる道となりました。

デザインを損なうことなく 音を吸うために

志村先生はすぐに来園してくれました。「音響的な問題が多くてびっくりしました。園舎自体は美しく、デザイン性に富んでいるんですが、残念ながら床が浮いている『浮き床』なので、音が太鼓のように響くんです。天井も壁も、

吸音をまったくほどこしていないため、反響した音が残る『残響』がすごくて。入ったとたんにもう、先生たちの困惑がわかりました」(志村先生)

やがて吸音工事をすることに。とはいえ、新築したばかりのピカピカの園舎です。「音は響かないようにしてほしいけれど、できるだけデザインは変えたくない」という園の希望を考慮した工事となりました。

たとえば通常、床や壁などに設置する吸音材は、いわゆる吸音材だとわかるようなものを貼るのですが、デザイン性を損なわず、できるだけ工事前と同じように、という希望にそい、この園では天井に吸音材を設置。「一度天井をはがして元に戻すという、思いのほかハイレベルな工事になりました」(志村先生)

そのほかにも、まるでオブジェのように壁に飾ってある丸や

雲形の吸音材、間仕切りをかねた吸音材など、随所にアイデアが光ります。

もちろん見た目のよさだけでなく、工事前には1.1秒あった残響が、0.4秒まで短くなりました。ちなみに残響1.1秒というのは「パン」と手をたたくと響きが1.1秒残るという意味。欧米の基準は0.6秒程度ですが、それが0.4秒となったのです。以前は隣の部屋が気になっていた子どもたちが、天井の吸音材やその他の効果によって、パーテーションで区切っただけで、しっかり集中できるようになりました。

改築は光や風とともに音も大切に

今では、「お隣のクラス、お散歩に行ってるの?」と子どもが聞くらいい静かだという練馬二葉保育園。園長先生は語ります。

「新園舎を建てる時、採光や



体操中の部屋の隣は工作中。工事前には隣が気になって集中できなかった子どもたちが、いまや誰ひとりとして振り向かず、集中しています。「天井の吸音がうまくいき、パーテーションが生きてきました」と志村先生。(写真提供:志村先生)

風の通り、壁の色などについては考えましたが、「音」については、建築の専門家が工夫してくださると思いこんで、あまり注目していなかったんです。音に対してはそれほど関心が高くなかったことに気づきました」

今では、ほかの園の園長に「改築するならばじめから音のことも考えて」と伝えているそう。「乳幼児期は人間形成において基礎となる大事な時期。そ

のころに、耳への刺激が強くストレスもあるような環境で過ごさせるのはなるべく避けたいものです。保育園に通う、通わないにかかわらず、みなさんに音環境の大切さを知ってほしいです。ひとりひとりに声をあげていただけたらと思います。

改築するときの条件として、光や風と同じように、音も大事な要素として入ってくるといいですね。それが理想です」

教えて! 志村先生 /

保育園の音環境に詳しい志村洋子先生に聞きました。

Q. 子どもたちの音環境は?

A. 今の子どもたちには、いつでもどこでも音が聞こえています。テレビやエアコン、扇風機などから絶えず音を聞かされているんです。何の音もしないときはほとんどありません。

Q. 家庭での吸音対策は?

A. 普通は部屋の中のカートンやクッションなど、布のものが吸音してくれます。畳は優秀な吸音材。フローリングは響くので、部分敷きでもカーペットやラグを。反響がグンと減ります。

Q. 保育の音環境の基準は?

A. 外国には基準がありますが、日本では幼稚園と小学校の一部に上限があるだけで、乳幼児期を過ごす保育園には基準がありません。徐々に改善されていくといいですね。

Q. うるさい環境でどんな影響が?

A. 音がよく聞き取れないため、言葉の発達が遅れることがあります。脳の中で音を認知するしくみをつくっている大切な時期だからこそ、音環境を整えてあげる必要があるのです。



練馬二葉保育園園長、高橋八映先生。

練馬二葉保育園

〒176-0014 東京都練馬区
豊玉南3-31-15
TEL 03-3993-5540
<http://nerima-futaba.com/>